

2019/08/07

雨宮 庸介
「幽霊の原稿」



「幽霊の原稿：眼鏡の中だけ思い出せる」2019 キャンバスに油彩 30×42cm

会期：2019年9月14日(土)～11月2日(土) 13:00 - 19:00

*日・月・火・祝日は休廊

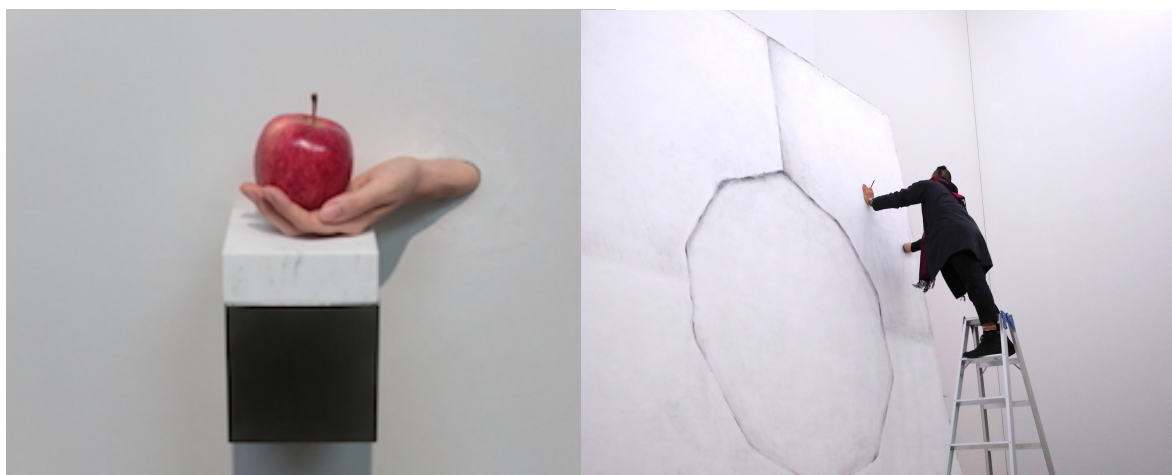
オープニングレセプション：9月14日(土) 18:00 - 20:00

会場：SNOW Contemporary / 東京都港区麻布 2-13-12 早野ビル 404

■ 雨宮庸介 展覧会のご案内

この度、SNOW Contemporary では、2019年9月14日より、雨宮庸介の個展「幽霊の原稿」を開催いたします。

1975年茨城県水戸市生まれの雨宮は、1999年多摩美術大学美術学部油画専攻卒業後、2011年に渡欧し、2013年にサンドベルグインスティテュート（アムステルダム）修士課程修了。現在はベルリンを拠点に活動しています。主な展覧会に「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」(2010/森美術館)、「国東半島芸術祭-希望の原理」(2014/国東半島、大分)、「未来を担う美術家たち 20th DOMANI・明日展」(2018/国立新美術館)などがあり、彫刻や映像インスタレーション、パフォーマンスなど、さまざまな手法を用いて日常では意識されない普遍的な事象における境界線の再考を促すような作品を制作してきた美術家です。



【左】「りんごと手」2018 ミクストメディア photo : Kenji Otani

【右】展示風景「未来を担う美術家たち 20th DOMANI・明日展」(2018/国立新美術館, 東京) photo : Kiichi Kawamura

2019年6月、個展の準備を進めている中、雨宮の両親がほぼ同時に健康を損ね倒れてしまいます。雨宮は、「作品を制作発表することと無関係としなければならないこれらの個人的な出来事に対して」「どう距離をとっていいのかわからなくなった」と言います。本人にとっては「重大な出来事」ではありますが、年を重ねる両親の問題は、誰にでもいつかは起こるであろう普遍的な出来事とも言えます。

当初雨宮は、作品を制作することと家族に今起きている個人的な出来事は無関係としなければならない事と捉えていましたが、やがて家族を考えることは、自身の作品のテーマでもある「境界」や「普遍性」を考えることにつながると感じました。

この度の展覧会では、「幽霊の原稿」と題し、自身の家族の事や、パフォーマンスやプロジェクトなどに関するさまざまな「原稿」としてのドローイングや油彩を6点ほど展示する予定です。

極めて個人的な単位でありながら社会の最少単位でもある「家族」をどう芸術表現へと昇華させるのか、雨宮の新たなテーマへの挑戦にご期待下さい。

「イデオロギーのかわりにコンピューターが与えられた時代において、僕たちはどう世界と関係をもつべきか。」という問いに対して、家族というコミュニティには国家や階級が失った「合理的な判断を超えた強制力」があり、それゆえに「裏返せば、むしろそれがあるからこそ家族は政治的アイデンティティの候補になりえるのだとも言える。」（「」内はすべて 東浩紀（2017）『ゲンロン0：観光客の哲学』 第5章 家族 より）

パフォーマンスの原稿にあたるようなドロージングで展覧会をつくってみようかと進めるなか、つい先月、家族のうちの2人が別々の病気で命の危険にさらされる事になり、大きなショックを受けました。（これを書いている現在、事態はずいぶん落ち着いている）

何か作品で触れてみようかとも考えたのですが、作品に持ち込むには個人的すぎるし、心情的にも物理的にもあまりに大きな出来事である一方、俯瞰してみれば、多くの人に順々に起こるであろう、人類においてはとりたてて珍しくない事態でもあるという、なんとも扱いにくい状況に身を置くことになったのです。

しかし、しばらくして、ふと、「家族」を考える事は、いつも自分が作品でしている実践「境界を行き来すること」や「ないはずのことに質量を与えてしまう」などの試みに密接な関係があるのではないかと感じ、まずはおそろおそろ並列に扱ってみる事にしました。

たしかに家族という単位は、インターネットが隅々まで普及した現代において、生身の身体という物質と思考が交錯する奇妙な舞台です。そして、そもそも人は「自分」という役まわりをまっとうするために日々を人生と銘打って演じているわけです。そう考えると、社会に向けたパフォーマンスやプロジェクトのために描いていた「原稿」たちもまた、時として家族を物語ることと相似形をとるように思えたのです。

「パフォーマンスやプロジェクトについての原稿」はもちろん「家族の原稿」もまた、「どこで“わたし”がおわり、“わたしたち”がどこではじまり、どこで終わるのか」という僕が常々取り組んできた問いに繋がるのだと予感しました。

「美術」またはそれとはおおよそ相容れにくい「家族」という存在も、実はどちらも表面は「半透明の見えにくい皮膜」で覆われており、その皮膜を透かしてみると、プリズムによって可視化された七色の光線のごとく、放射状に哲学や社会学、生物学や量子物理学さえも放出されるのではないかと思えたのです。

■雨宮庸介 略歴

- 1975 茨城県生まれ
1999 多摩美術大学美術学部油画専攻卒業
2013 サンドベルグインスティテュート（アムステルダム）修士課程修了
2014 3314年までのプロジェクト「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」<http://ishimochi.com/>を開始
2015 文化庁新進芸術家海外研修員、オランダ（アムステルダム）
現在、ベルリンを拠点に活動

主な個展

- 2018 「Ring Me Twice」 SNOW Contemporary, 東京
「あ、あな、あなた」 ARTS ISOZAKI、茨城
2013 「On Alongsideness」 Galerie Fons Welters、アムステルダム
2008 「ムチウチニューロン TEAM: Tokyo Wonder Site: Emerging Artists on Mezzanine 13」 トーキョー
ワンダーサイト渋谷、東京、「ムチウチニューロン A」 project room sasao、秋田
2006 「Translator's High」 Yuka Sasahara Gallery、東京
2005 「THE WORLD」 BOICE PLANNING、神奈川
2001 「雨宮庸介展-いない気配-」 Guardian Garden、東京
「フォギードギーデッサンラン」 FADs art space、東京
1999 「つむぐ・ときほぐす」 Gallery QS、東京

主なグループ展、イベント、パフォーマンス等

- 2018 「未来を担う美術家たち 20th DOMANI・明日展」国立新美術館、東京
「CREATION Project 2018 大堀相馬焼 167 のちいさな皿」 Guardian Garden、東京
「Wiesbaden Biennale」 City Passage Wiesbaden、ヴィースバーデン/ドイツ
「ビヨンド・ワンダー ーさまざまなユートピアへの眼差し」名古屋芸術大学アート&デザインセンター、
愛知
「びゅー view ビュー」渋谷ヒカリエ、東京
2017 「Happy People - A smoking lounge by Arnar Ásgeirsson」 The Living Art Museum、レイキャビーク、
アイスランド
「Walking Across A Huge Wilderness To Meet With The Unknown Close Friend In Formal Attire」
オープンスタジオ FAHRBEREITSCHAFT/Haubrok Foundation、ベルリン/ドイツ
「Framed#3」舞台美術 with Roi Alter、ベルリン/ドイツ
2016 「7つの船」梅田哲也、雨宮庸介、さわひらき、ヒスロム、松井美耶子、辰巳量平他によるボートツアー、
大阪
「はならあと・コア」高取エリア、奈良
「Raum19」オープンスタジオ FAHRBEREITSCHAFT/Haubrok Foundation、ベルリン/ドイツ
「The Applicant」パフォーマンス、オランダ大使館、ベルリン/ドイツ
2015 「FRANZ MÜLLER'S WIRE SPRING」 by Roi Alter 出演、Splendor Amsterdam、アムステルダム
2014 「国東半島芸術祭」-「希望の原理」国東半島、大分
「一週間テニスコート」パフォーマンス、Super Deluxe、東京
2013 「国東アートプロジェクト」国東半島、大分
「アートがあれば2」東京オペラシティアートギャラリー、東京
「なぜ動くのかを2」ST SPOT、横浜（ダンサーへのワークショップ）
2012 「Three Artists Walk Into A Bar」De Appel art center、アムステルダム
「壁の間に卵を立てる」26時間パフォーマンスインスタレーション・梅田哲也との共作・名村造船所跡
地、大阪
「TRANSITIONS」パフォーマンス・NIMk (Netherlands Media Art Institute)、アムステルダム

- 「OBJECT ROTTERDAM」 Las Palmas、ロッテルダム
「なぜ動くのかを」 ST SPOT、横浜 (ダンサーへのワークショップ)
- 2011 「ACHIEVE!」 パフォーマンス ・ XYZ collective GRAND OPENING、東京
「併走論 (当日までのタイトル：あの、2011年8月28日)」 雨宮庸介呼びかけによる「同時進行型、公開制作/パフォーマンス/トーク」 イベントトーキョーワンダーサイト渋谷、出演：青山悟・雨宮庸介・安齊重男・梅田哲也・O JUN・沢山遼・千葉正也・土屋誠一
「黄金町バザール2011」 黄金町周辺エリア、神奈川
「日英共有展 CROSS COUNTER」 CUPSULE / XYZ collective 、東京
「CREATION Project2011 東日本の職人と180人のクリエイターがつくる印染トートバッグ展」 ガーディアン・ガーデン、東京
「Shadow performers」 Galerie de Expeditie、アムステルダム
「VOCA 2011」 上野の森美術館、東京
- 2010 「六本木クロッシング 2010 展；芸術は可能か？」 森美術館、東京
- 2009 「Twist and Shout: Contemporary Art from Japan」 バンコク芸術文化センター、バンコク
「日常 場違い」 神奈川県民ホールギャラリー、神奈川
「Micro Paradise」 My Humble House Art Gallery、台湾
「neoneo 展 Part 1[男子]」 高橋コレクション、東京
- 2008 「秋葉原階段 AKIBA-Q」 BOICE PLANNING パフォーマンス ・ 101 TOKYO ART FAIR、旧練成中学校、東京
「ムチウチニューロン」 トーキョーワンダーサイト渋谷、東京
「ムチウチニューロン A」 パフォーマンス ・ coco laboratory、秋田
「Akasaka Art Flower 2008」 旧料亭島崎、東京
「第4回府中ビエンナーレ トゥルー・カラーズ - 色をめぐる冒険」 府中市美術館、東京
「エントランス人」 パフォーマンス ・ 府中市美術館、東京
- 2007 「机上位」 BOICE PLANNING、神奈川
「鳥は卵の中からぬけ出ようと戦うx世界と繋がる方法xムチウチニューロン」 パフォーマンス ・ 群馬県旧南郷小学校 図工家庭科室
- 2006 「食と現代美術 Part2-美食同源」 BankART Studio NYK、神奈川
- 2005 「A ランチ」、AXIS GALLERY ANNEX、東京
「あたらしい〇〇をつくる」 東京都現代美術館ハイビジョンルーム、東京
「あたらしい果実」 (as BOICE PLANNING) 東京都現代美術館、東京 (ワークショップ)
「われらの時代」 水戸芸術館現代美術センター、茨城
- 2004 「雨宮庸介/小林洋子」 レントゲンヴェルケ、東京
「TAMA VIVANT 2004」 多摩美術大学八王子キャンパス、東京、みなとみらい駅コンコース、神奈川
- 2003 「GOING 1992→2002」 Guardian Garden、東京
- 2002 「TAKO KITE」 Guardian Garden、東京
「ハレの日」 BOICE PLANNING、神奈川
- 2001 「地雷展」 FADs art space、東京
「群馬青年ビエンナーレ'01」 群馬県立近代美術館、群馬
「'01 年末チャリティー企画展「ハッピーアンブレラ 200」」 Guardian Garden、東京
- 2000 「3.3m2 (ひとつぼ) 展」 Guardian Garden、東京
「'00 年末チャリティー企画「Watch 2001」」 Guardian Garden、東京
「mist/imitation」 アカデミア・プラトニカ、茨城
- 1999 「アート公募 2000」 新木場 SOKO ギャラリー、東京

その他 受賞、助成等

- 2016 TERUMO 芸術文化支援活動 リサーチ支援
2014 大木記念美術作家助成財団海外研修 アムステルダム滞在

2011-12 江副記念財団スカラシップ サンドベルグインスティテュート修士課程修了
2001 ホルベインスカラシップ
群馬青年ビエンナーレ 奨励賞
2000 グラフィックアートひとつぼ展 グランプリ

パブリックコレクション

高橋コレクション、三井ホーム

■お問い合わせ 本展の広報にご協力賜りたくお願い申し上げます。

SNOW Contemporary

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

tel & fax : 03 6427 2511

mail : snow@officekubota.com

HP : <http://snowcontemporary.com>

担当：石水美冬（いしみずみふゆ）